

瑞雲

第 1 号

942
1967・6

直方鉄工青年会



発刊のごあいさつ

会長 おおた まさお

鉄工青年会の会報が出来ました。

多忙な中で会員だけでつくりました。無論難点もあるでしょう。だが村井さん年米の企てが一つ実ったわけです。手垢に染んだ会報ですが、ともかく発刊しました。

担当した大三郎さん、伊藤さん有難う。

青年会は直方鉄工界が筑豊炭田の衰微による不振と、北九州鉄工界の連鎖倒産による、多大の負担を蒙った最中に発足しました。

「お互に手を繋ごう」 (親睦)

「一緒に研修しよう」 (共通問題の討議)

「お互は団結しよう」 (共同体としての推進体制)

と、

それから二年余りになります。

会としての運営は一応軌道に乗り、親睦は回を重ね、積立金は本年中に一千万円に達しようとしています。だが……。

さて、これから

(2)

1. 親睦の進展

仲の良いのに越したことはない。若い業界人として親睦を益々深め、「おれが」「おまえが」の仲になったら、どうでしょうか。

これからの業界での、いろんな話合の場で、こだわらず、徒らに感情的にならない、素地をつくる為に。

過当競争 引抜防止 仕事の交換 共同援助

等、現在直面している問題解決の為に。

2. 研 修

私達の仕事は世の中の仕組のなかで、改新の最も烈しい業種だと思います。技術的には、うっかりしていると取り残されて消滅するのがおちです。金融面では、受注の為に間接的に立替支払の姿さえあります。小工場の今後を左右すると思われる雇傭の点は、お先まっくらです。

斯様に、同業者としての共通の問題は山積し、その解決は容易ではありません。青年会は皆で考え、その解決案を、

- 鉄工組合に持込む
- 会自体で実現する
- 会員同志のグループによる実際活動

以上の方式で解決案の実現を計るべきではないでしょうか。

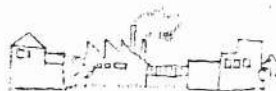
3. 団 結

会の存続は団結にあります。

会の発展も団結によります。

そして、鉄工界将来の飛躍は業界の団結如何にあるとさえ思われます。

最後に会の行事としてのレチャーは、20代のグループがその計画から準備迄のすべてを担当してありますが、「おてやわらかに」願います。





青年会の課題

初代会長 村 井 博

会報が出来ると言ひ。喜ばしい限りである。何か書かなければならない。

直方鉄工青年会が発足して早や3年になろうとしている。そしてその間何が出来たであろうか、反省すると何も出来ていない様な気がする。だが何かはある。ある筈だ。金はいくらかたまったが投入する何ものもない。若さの結集と和を或る程度築くことは出来たが、やはり何か足りない。その欠けたものは何であろうか。精神的なものか、実行力的なものか。

エ一面倒臭い、その様な事を考えるより如何にすれば直方が発展するか、夫々の小企業を育成出来るか、職人と共に退休を楽しく裕福な日曜と出来るか等考えた方がよほど楽しい。

もし現状のまま鉄工界が何等の脱皮もなし得ず数年を経過したと仮定したらどうだろう。北九州や長崎造船界の下請として、景気の動向に敏感に支配され、連

鎖倒産時代と同じ様に②がクシャミすれば直方は風邪をひく姿と変わり無いだろう。

ならば現状を脱皮する為にはどうするか、今更言わなくても皆考えていることである。個人個人計画もたて、前進しているが、単価的絶対優位になる迄には何年かかるであろうか。個人企業の借入金はいかかか知れている。或るメーカーは立石の下請で脱皮を計り、仕事を進めているが、数に追いつく迄の資金が自由にならない為伸びなやみである。団結して新企業とすれば政府の方針通りであり、借入金も不自由で無く二歩も三歩も前進出来よう。集団化法も工場貸与法も、高度化資金も、事業団資金も(之には例外もあるが)団結してこそ利用出来るのである。今日の老千万円は十年後の六百万円位しか相当しないだろう。何故なら毎年7%から10%経済成長を示している状態が戦後続いているし、今後も工業国で

(4)

東洋の先進国の立場がある以上継続して行くであろう。借入金の利息以上の成長率である。ベトナム戦も漸減的には縮小して行くであろうが、急に停止して米が引揚げる等絶対にあり得ない。更にアラブの震行もあやしい。ケネディラウンドも可決された。日本は5%の余剰物資（日本の場合農機具等）を後進国に出すこととなった。貿易自由化は更にきびしい単価競争を強いられている。今考えなくて何の企業家であろうか。団結に依る高能率化こそ現在の我々が直ちに取組まなければならない最大の課題であろう。

働く子供達や労働者が少ない。何故か。給料が安い、職場に魅力が無いからだ。これはお互が努力しなければ解決しない事だ。良い企業には人も集まる。それを考える事だ。又給料が高ければ少々悪くても労働者は来る。京阪神並みにするこ

とだ。それには企業にそれだけ利益を出すことだ。又北九州と瀬戸内工業地帯を直結するため尺岳をぶち抜き道路を整備することが必要だ。国鉄を電化してスピードアップすることだ。働く青少年の割引制度を実施することだ。学割程度に……。そして職場を改善することだ。レジャータウンを福智山麓に作ることだ。直方駅の近代化も必要だ。遠賀川もきれいにしなければならない。そして、リバーサイドパーク、パブリックゴルフ場も必要だ。鉄工青年会の若い人々に課せられた課題が如何に大きいかわ覚して前進しなければならない。団結だ、検討だ。如何にすれば実行出来るか、そして又前進だ。

諸条件を整え、そして明日の直方工業圏を確立しなければならない義務を我々は背負っているのである。

人物寸評

○32歳ではありません

シワ=32 Mr. OOTA

○ガガガ……ガイガー計数器ではありません。 Mr. WAKABAYASI

○竹中半兵衛。瘦躯よく、その智變を支える。 Mr. NEBA

○ヤーマッタマッタ。アंकルトリス

Mr. INOUE

○オモチャのラッパ

同じ吹くなら大ラッパ

Mr. IINO

○水も黒いが色も黒い

どちらも白くせにゃならぬ。

Mr. MURAI



企業に生きる道



繁栄の歴史を長く綴った石炭産業も、衰退の一途を辿り、我々もその
 転身に毎日全力を尽しながら努力している。

しかしあまりにも早い経済構造の変遷に、ともすれば押し潰されそ
 うな気持を自らの手で尻をたたき生き抜いている我々の業界は素晴らしい
 限りだ。しかし今後の業界の存続発展をさせるには、もう一度各々の企
 業のあり方を振返って考える時期が来たのではないだろうか。我々の時
 代は前向きの変勢で事業に取り組む、あらゆる面での近代化を図る以外は
 企業を保って行く事は到底出来ぬ時代となった。

現状維持程むつかしいものはない。現状維持の考え方は過去では通用
 したが、現在の世の中では極端な言い方かも知れぬが自滅を意味する。
 前向きには苦痛と不安がつきまとう。しかし艱難辛苦が企業にも又人生
 にも節を作り、逞しくしていくのではないだろうか。ミスの無い人生は
 無い。失敗もあるかも知れぬ。しかしそれを避けたりしないで正面から
 ぶつかって堂々と乗り越えて行く。これを実行するかどうかが企業の興
 行を広くもし狭くもする。

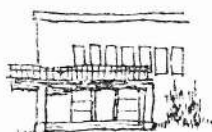
努力惜しみが身につくと創造的精神も欠けてくる。考え方によっては
 我々は良い時代に遭遇したものだ。いやが応でも自分で節を作らねばな
 らない。鉄工所の若い者は「節なし竹」だなんて言われずに済みそうだ。
 長い伝統を誇る我々の業界の発展の為に、苦しみを耐え堪え輝かしい未
 来を夢みて、企業に生き抜き地域社会に貢献出来る様に努める事が若い
 我々に与えられた課題ではないだろうか。

(D・I生)

歴代理事長訪問

飯野鉄工所

— 飯野憲一郎氏 —



◎ 昔の組合・今の組合

「今の組合はズバリ言って金融関係で相当苦勞している。昔は手形割引というものがなかったの、金融関係の手間も相当にはぶけていた」昔の話をされている間に戦時中の仕事のことが出てきて、気持は遠く満州、ハルピンの話に移ると、飯野氏も当時を思い出されて感無量の様であった。

「昔の景気は10年周期位いで景気の波がやってくるという点で、もうけるときにはその額も大きかったが、その反面仕事が無い時には今と違ってどんなに努力しても仕事がなかった。今後あなた達も大きく目を開いて頑張ってください」

◎ 現組合に対して

現在の組合は、市及び商工会議所等の交流が少い様にあるので、交流という点に今一度

再検討する必要があると思う。結局組合が良くなる為には、政治的なバックアップがなくてはやっていけない。手形割引等について、組合は非常に努力して好結果をもたらしている。組合の充実を図るため組合員の増加を望み、又組合員は組合を大いに利用していただきたいと思う。

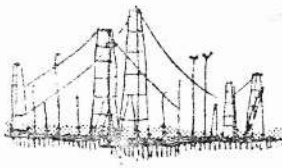
◎ 協同化について

お互に協同化という事を考えているけれど、最終的には我が身可愛さと言うことになって終い、自分の身の廻りを一生懸命守り続けると言うのが現実である。今迄あまりにも炭鉱機械にオンブされていたので、とにかく「やればもうかる」という考えが身に沁みているので、このことに於ても協同化という問題に対して十分に検討して進まねばならないと思う。

◎ 鉄工団地の件について

ほちほち他の所から企業を誘致してくるだろう。現直方の鉄工所に於ては金の点で団地への移転は今後共問題になるだろう。

鉄工団地を大きく作ったが現在ではどうも皆が望んでいた工業団地とは変わった様である。



直方鉄工所根性記

井上鑄物社長訪問

1ヶ月程の入院、病後の対談であるため短時間で……というこゝで始まった。

北九州方面の倒産が及ぼす影響という問題から話題が始まる。

「とにかく北九州の倒産に於ける影響というものに対して、直接的にあるいは間接的に受けたものはもっとも大きいのではないかと思っております。市内でも倒産があり、それによっても又泥がはね返ってきたし、その壁に何もかも投げ出そうと思っていたのですが昔から不動明神を信仰していたので、この難を切り抜いて来ました。人間せっぽはつまるど何かにはすがりたい気持ちに駆られるが、これも神様のお蔭です。兎に角、他人にあるいは鉄工組合に迷惑をかけてはならないという気持でやってきました。勿論夫婦真黒になって頑張りましたが、家内程有難いものはありません」

この様に言われている時の井上さん、そして奥さんの顔には何かすごいファイトと自信が見られた。「今では息子もやってくれるので助かる」と気分的に大分楽になっておられ

る様だった。

今後の直方鉄工界の進み方に対して

「直方の小さな工場同士の競争をなくし、お互いが手を結んで團結していくという点が欠けています。それには協同化、機械化あるいは技術の向上を持ってやっつけていかねばならないでしょう。これも一つの案ですが、直方に協同鑄鋼工場を作れば、直方だけでも十分に活用出来ると思います。こういう理想に対して私は若い人に大きな期待をよせています」

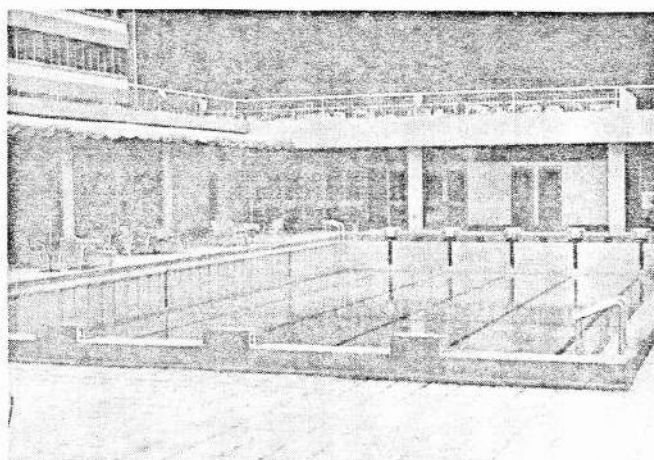
直方鉄工団地の件について

直方に於ける鉄工所では有効に利用することは出来ないでしょう。何故なら土地代が高いという事が第一で、団地に移ると機械の移転等にも相当の資金がかかる。そして今の景気がいつまで続くかという点にも疑問があります。だからなかなか踏切れないものがあります。

最後に井上氏の根性「麦の穂の如く踏まれても踏まれても立ち上ってくる」この根性を誰も忘れてはなるまい。

自家製品紹介

九十九島観光
ホテルに設置
の鋼板製プー
ル。



根葉鉄工所では昨年末より鋼板製プールを製作している。今迄のコンクリート作りよりも耐久性に富み、水洩れは皆無。地上式、地下式どちらも安い価格で好評を博している。九十九島観光ホテル、佐世保高校、伊万里中学校等に納入の実績あり。

表題の説明

瑞雲とは暗雲涼り雲の合間より陽光
さし込む様をいう。

発行所 福岡県直方市殿町 5 の 1 ・直方鉄工青年会 電話 直方 ☎ 3 2 4 1 番

発行人 大 田 正 男

印刷所 直方市古町 8 の 2 2 ・高島プリント社 電話 直方 ☎ 1 2 9 0 番